

『内視鏡手術支援ロボット(EMARO)を導入してから 1 年

~EMARO 導入から見たより良い手術チームのあり方~』

社会医療法人 恒心会 恒心会おぐら病院 手術室

町屋 毅志

近年、内視鏡外科手術領域においてロボット手術(da vinci 等)が飛躍的に普及している。そんな中、当院において 2016 年 6 月より安全性・操作性・機能性に優良と言われる内視鏡手術支援ロボット(EMARO)を導入した。

導入直後には勉強会を実施し、外科チームを中心に「EMARO チーム」を結成、その後ドレーピング・レイアウト等のマニュアルを作成した。また動作確認のチェックリストを作成し手術前までに必ず確認するようにした。ドレーピングマニュアルについて当初は写真を入れて分かりやすく作り使用していたが、写真では実際ドレーピングする際に伝わりにくい場面もあり、ドレープを不潔にする事象があった。そのため、より分かりやすくする目的で動画のマニュアルを作成しスタッフへの周知徹底を行った。また動作確認のチェックリストを作成し手術前までに必ず確認するようにした。

今年度より臨床工学技士(CE)が新規で配属され、動作確認のチェックを行うようになり、CE が「ZERO ME」のシステムを用いてデータ管理するようになった。導入直後より試行錯誤で EMARO 使用による手術を行ってきたが、より良い手術チームのあり方として、手術が安全かつスムーズに進行するよう医師・コメディカルのチームでカンファレンスを密に行い、更にはメーカーと協働しセミナー等で他院との情報共有の場が必須になると考える。